

【現状】

留萌北部地域の民有林の多くは、造林・保育による資源の造成期から本格的な資源の利用期を迎えようとしているが、

- これまで林業活動の主体が育林作業であったことから、生産・販売事業に関する実績が少ないため、販売に関するノウハウが少ない。
- 事業地の集約化が進まず、小規模・分散的な木材の供給体制となっている。

【問題】

地域林業関係者の林業技術の向上や集約化をどう進めていくか。

【課題】

- 国有林が主導して民有林と連携した森林施業・木材販売の必要性。
- 最新の技術を提供する研修会開催の希望。

【これまでの成果・取組】

- 道有林と国有林をロットでまとめて立木販売を行う取組として、振興局と民国の伐採計画を合わせた図面（民国一体化図面）を作成した。
- 地域の木材生産の向上を図るため振興局と連携して
 - ・ 天塩町の林務担当者を対象に工程管理システムについての説明会を行った。
 - ・ 素材（丸太）販売についての勉強会を実施し、出材量の把握方法（検知）について指導した結果、天塩町で木材販売を行うことができた。

【目標】

地域林業の発展に向けた地域林業関係者の林業技術の向上と管内民有林の集約化の実現。

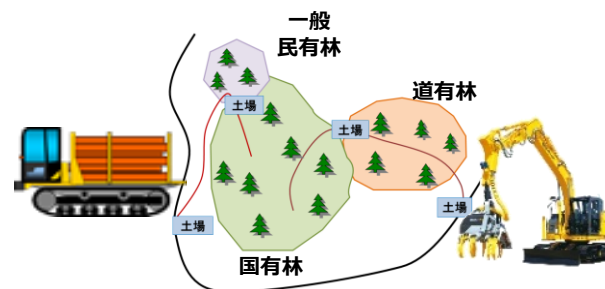
【令和元年度の取組予定】

① 民有林と連携した森林施業の推進

→協調出荷等による収益性の向上

初山別森林共同施業団地において国有林、道有林、一般民有林が連携して間伐等の施業を行う。

国有林と道有林で合同入札を行うため、具体的内容（入札月日、入札場所など）について調整し、共同施業・協調出荷の実現を目指す。



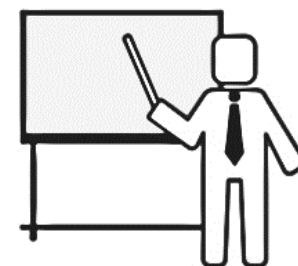
② 地域林業の発展に向けた取組

→地域関係者のスキルアップ

国有林が持っている技術を引き続き提供していく。具体には道有林と連携して各町村や森林組合の要請も踏まえながら、担当者向け研修会を実施する。

【今後の取組】

森林共同施業団地での共同施業・協調出荷などの低コスト林業に向けた取組事例や工程管理、ドローン、木材販売など最新の技術情報を市町村や林業関係者との会議、研修会の場で積極的に提供していく。



目 標

地域林業の発展に向けた地域林業関係者の林業技術の向上と管内民有林の集約化の実現。

令和元年度取組

取組の内容

取組の成果

民有林と連携した
森林施業の推進

国有林、民有林の垣根を超えて一体的な伐採や搬出、協調出荷をすることで、事業ロットの拡大、コストの削減や木材の安定供給を図ることを目的に初山別森林共同施業団地において、国と道が連携して合同入札に取り組んだ。

7月に運営会議を開催して関係者間で入札時期や入札会場などを調整。さらに、入札参加者に両方の物件を見せて一体的な施業のメリットを分かってもらうために現地説明会を合同で開催した。

9月5日、初山別村自然交流センターで合同入札を行った。



運営会議で入札時期等を調整



合同の現地説明会

国と道が合同入札を行うことが業界紙に掲載され、木材業界の関心を高めることができた。

その結果、国有林、道有林とも3者の応札があった。

国有林の立木を落札した事業者は、隣接する道有林の路網や土場を利用した効率的な作業が可能となった。

地域林業の発展に
向けた取組

北海道大学天塩研究林の見学会を国有林、道有林、管内の市町村の林務担当者35名の参加のもと実施した。低コストによる更新などの施業を学ぶため、天然更新表土戻し試験地、カンバ強度間伐試験地、アカエゾマツ高齢級造林地などを見学し、試験内容、木材の需要動向など幅広く意見交換を行った。

アカエゾマツ疎植試験地での
意見交換

多くの参加者が初めて見る施業方法を見学することができ、低コスト施業推進に向けた貴重な体験と情報を共有することができた。

今後、地域の森林整備や施業を行うための参考にしていく。

目標に対する達成度

次年度の取組予定

・国有林、道有林の販売数量を取りまとめて合同入札をすることで協調出荷、集約化への下地ができるとともに、新規応札者の参加にもつなげることができた。

○森林共同施業団地内の集約化に取り組んだが、私有林の参画まで至らなかった。また、合同入札という初めての試みで、入札参加者から「双方の入札手続きが違うので困惑した。」との声も聞かれた。こうした課題や取組の成果について関係機関と整理し、次期森林計画に向けて反映すべく検討していく。

○見学会参加者から「いろんな施業方法を見たいので、また、取り組んでほしい。」との意見があった一方、新任の町職員から「レベルが少し高かった」との声もあったことから、新任・若手職員を対象した見学会などについても企画していく。